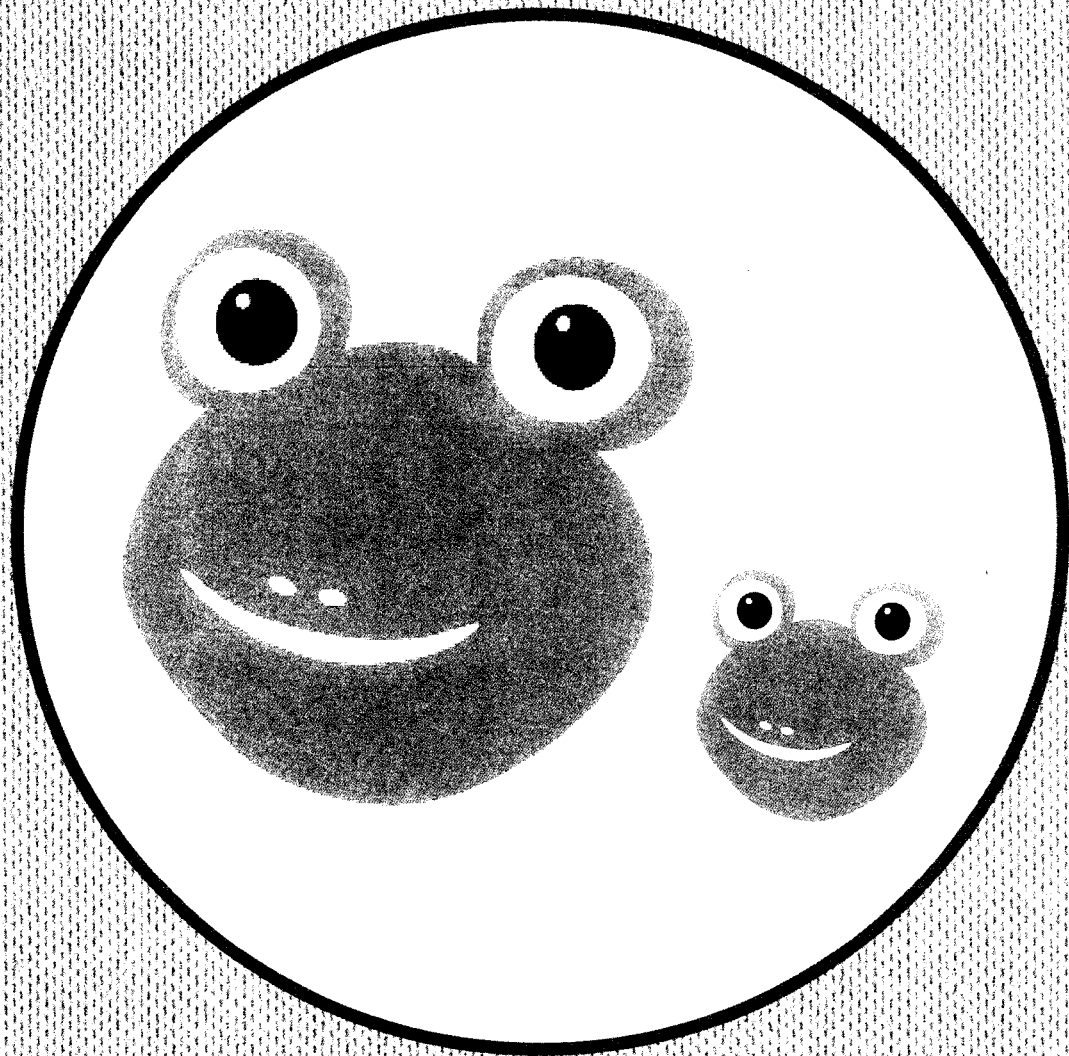


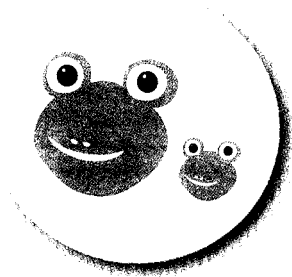
パパの

# 育児休業体験記

概要版



平成20年12月





# 目次

I. はじめに			
「パパの育児休業体験記」のあらまし	-----		1
II. 巻頭言			
パパの育児休業体験記に寄せて		西垣 淳子さん	----- 2-3
III. 体験記ダイジェスト			
第1章 育休を後押しする周囲の理解と環境	-----		4-5
取組をためらう気持ちを後押しする温かい力。育児休業を取得しやすい環境とは？			その環境づくりのための必要な取組とは？
第2章 育休取得は工夫次第	-----		6-7
一見、敷居が高い育児休業も、工夫次第で取れるように。また職場が育児休業を			快く受け入れるための秘訣とは
第3章 育児で深める絆	-----		8-9
育休を取ったことで、共有できた妻の気持ち。パパも子育てすることで、			家族の絆が深まるとともに、職場や地域の人とのつながりを強めることにも
第4章 楽しむ子育て	-----		10-11
育児休業の醍醐味は、子どもと一緒に過ごせること。パパたちの子育てとは？			
第5章 育休取得の効果	-----		12-13
育児休業がもたした育児と仕事の好循環。育休がもたらしたさまざまな変化			
IV. 体験記本文紹介			
～第1章から～ 育児は「育自」		大岩 泰治さん	----- 14
「仕事の交代要員は何とかできる。けれど奥さんの交代要員は君しかいない」			との言葉に励まされた
～第2章から～ 私の育児休業を振り返って		於久 英樹さん	----- 15
育休を取得するという強い意思と何をすべきかを真剣に考えることが、			育休を温かく受け入れてもらう鍵
～第3章から～ 家族は宝物		川島 光博さん	----- 16
難しい出産、支えられるのは自分だけ。妻とじっくり話し、共有した未来像。			家族はやっぱり宝物
～第4章から～ 新米おとうちゃんの育児奮闘記		奥 博史さん	----- 17
泣くことでしか意思表示できない赤ちゃんの心にじっくり耳を傾ける、			そんな大切さを再認識
～第5章から～ 育休で得た、5つの仕事能力		富田 晃彦さん	----- 18
育休制度は、社会人として大きな能力を身につけるための			静かな時空間を用意してくれた

## V. 参考

育児休業制度の概要（育児・介護休業法）	19
育児休業に関する企業の取組例	20
育児休業取得率（事業所規模別）	21
6歳未満児を持つ男性の育児・家事関連時間（週全体）	21
「パパの育児休業体験記」目次（本体掲載者一覧）	22-24
体験記執筆者の属性	25-26

- 各体験記（抜粋を含む）のキャプションは、編集者である内閣府仕事と生活の調和推進室において付したものです。
- 体験記の内容は、執筆者の横顔を含めて応募時点（平成20年9月2日～10月17日）のものです。
- 執筆者の横顔（体験記の抜粋の右欄）の凡例
  - ①業種・役職
  - ②勤務先従業員数
  - ③年齢（育休開始時、※複数回取得の場合は初回の育休開始時）
  - ④育児休業期間（概数、複数回取得の場合は通算）
- 体験記中で言及されている育児休業制度には、執筆者勤務先の取組として独自に設けているものである場合があります。
- 無断転載はお断りします。ただし、「copy free」と表示されたページの記事は出典を明記の上、ご自由にお使いください。

# 「パパの育児休業体験記」のあらまし

「育児休業を取りたい」「仕事と同様に家庭でもしっかりと役割を果たしたい」と考えている男性を後押しするとともに、そういった男性を取り巻く職場や家族の意識を変えていくことを目的として、育休を取得した又は取得中の先輩パパたちの育児休業体験記（以下、体験記と略します）を公表しました。

84編の体験記では、

- ・職場が体制を整えて育休取得を応援してくれた、
- ・ママの気持ちを初めて理解することができた、
- ・子育てを通じて家族との絆を深められた など

さまざまなエピソードが語られているほか、これから育休を取得しようとしているパパたちや家族、職場などに向けたアドバイスなども含まれています。

この体験記を、これから育児休業を取りたいと考えている男性（パパ）ばかりではなく、パパと一緒に子育てをしていきたいと思う女性（ママ）にも、是非、読んで、活用していただきたいと思います。

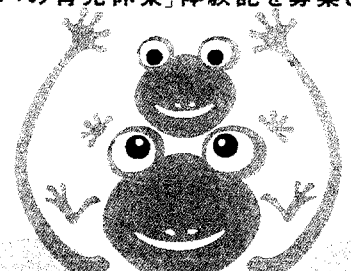
また、孫の誕生を控えている‘じいじ’や‘ばあば’、そしてパパと一緒に働く人たちなど、パパとママを取り巻くあらゆる人たちにも、この体験記を読んでいただき、新しい家族とともに歩みだそうとしているパパとママを力強く応援していただきたいと思います。

この「パパの育児休業体験記」（概要版）では、育児休業の取得申請から職場復帰後までの5つのパートに分けて、先輩パパたちのエピソードやアドバイスなどを掲載しています。ここでは、84編すべてを紹介しきれませんが、「仕事と生活の調和ポータルサイト（<http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html>）」には84編すべての体験記を掲載していますので、是非、ご覧ください。

### 〔参考〕募集概要

- 対象者 育児休業を取得した、または、育児休業中の男性
- 募集期間 平成20年9月2日～10月17日
- 応募方法 郵送、ファクシミリ、インターネット

「パパの育児休業」体験記を募集します!



育児休業の取組を通じて感じた、職場への思いなどを、お寄せください!  
皆さんの体験を広く発信することで、職場での「仕事と子育てを両立したい」と  
考える男性が増え、職場の環境改善につなげたい!

募集要項

- 対象者 育児休業を取得した、または、育児休業中の男性
- 募集期間 平成20年9月2日～10月17日
- 応募方法 郵送、ファクシミリ、インターネット

その他 ○原則一人1編、500文字以内で記述してください。  
○体験記の採用権は内閣府にあります。  
○応募された方から採用された方には、その体験記を  
仕事と生活の調和ポータルサイト（<http://www8.cao.go.jp/wlb/index.html>）に掲載させていただきます。  
○採用された体験記は、育児休業体験記集に掲載させていただきます。

連絡先: 内閣府 仕事と生活の調和推進室 男性の育児休業体験記募集 電話:03-3561-9269

## パパの育児休業体験記に寄せて



80 通を超える育児休業体験記が内閣府に寄せられたことは、男性の育児休業が社会的に広がってきていることを示していると思います。もちろん、育児参加の有無は、決して育児休業の取得の有無だけで計れるものではありません。男性の育児休業取得率の相変わらずの低さにもかかわらず、街で見かける赤ちゃん連れのお父さんたちの姿は確実に増えているのを感じています。

体験記の中にも指摘されていましたが、育児休業の取得の難しさもありますが、育児休業のあとに、連綿と続く長い育児生活を、いかに仕事と両立させていくか、ということのほうが、難しい点も多いと思います。

女性の 7 割が第一子出産後に仕事をやめています。そして、仕事と育児の両立の難しさをその理由としてあげている人が多いのは、現実の厳しさを物語っているのでしょう。

私自身も、1 歳にならない双子を保育園に預けて職場復帰をしたときには、自分のキャリア継続に苦勞していました。それでも、第三子の誕生をきっかけとして、夫が一年間の育児休業を取得し、その間 3 人の育児を主体的に行ってくれた結果、仕事継続の困難さはずいぶん軽減されました。

現在は、夫も職場復帰をし、夫婦双方が、仕事と育児の両立を協力しながら行っています。そうした中で感じるのは、双子の育児責任を一人で負いながら、仕事と両立していた時期と、夫とその責任を分担しながら、3 人を育てている今との相違です。

第三子出産前の夫は、自分の都合のよいときにだけ子どもを見でくれるという「育児のお手伝い」でした。最後は、「俺には仕事がある」という言葉で逃げ切られてしまいます。「君が休めないのか」「誰か他の人に頼んでくれよ」といわれることはあっても、「俺が何とかする」とは言いませんでした。

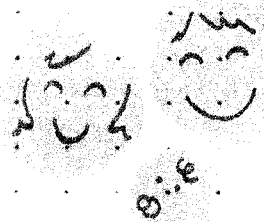
夫も「育児」をしている今は、私の負担と責任は、半減どころか、精神的には 10 分の 1 ぐらいになりました。夫が「育児」をするようになったきっかけは、育児休業取得です。子育てを自分で 100% 行うことにより、自分のかつての「育児のお手伝い」が、いかに「育児」と呼べないかということを痛感したようです。



妻が働いている場合に、夫が育児責任を共有することは、妻の仕事との両立を格段に容易にしたいと思います。常に、子どもに何かあったら、自分が仕事を休むあるいは辞めるという選択肢しかないのに比べて、場合によっては夫に頼めるということであれば、妻は仕事を続けやすくなります。

また、妻の職業の有無にかかわらず、子どもを育てるという責任の重みは、一人で負うには重過ぎます。そして、同時に、日々成長していくわが子のいとしさを妻に独占させるのはもったいなさ過ぎます。体験記の中にもありましたが、育児休業を取った皆さんはそれに気がついています。

男性の育児休業の取得は、夫婦がともに子どもを育てるという選択をするきっかけとなるように思います。もちろん、家庭のあり方、子育ての方針は、それぞれの家族で納得して決めていくことです。それでも、育児休業の取得を阻む要因が大きければ、家族の選択は達成できません。体験記の中でも、職場の理解や周囲の環境による後押しが、取得の決断につながったというコメントがあるように、おそらく、その逆に、取りたくても、周囲の反対で取れなかったという人たちも多くいらっしゃるのでしょう。仕事と生活の調和、男性の育児休業取得促進に向けて、社会全体で取り組んでいくことは、非常に重要だと思います。



育休パパの妻として

西垣 淳子

**西垣 淳子氏 略歴**

平成 3年 通商産業省（現経済産業省）入省

以後、生物化学産業課課長補佐、大臣官房地方課課長補佐、産業組織課課長補佐等を歴任

平成 14年 男女の双子を出産、1年間の育児休業を取得

平成 15年 世界平和研究所 主任研究員。会長である中曽根康弘元首相のもと憲法改正案作りに取り組む。

平成 16年 男児を出産し、翌月に復帰。

（氏の夫である山田正人氏※が1年間の育児休業を取得  
※「経産省の山田課長補佐ただいま育休中」の著者）

平成 20年 経済産業研究所上席研究員

# 1 育休を後押しする周囲の理解と環境

取得をためらう気持ちを後押しする温かい力。育児休業を取得しやすい環境とは？そのような環境づくりのために必要な取組とは？

- 職場が、育児休業について理解があり、前向き
- 会社が、育児休業制度などについて周知するほか、社員の育児を支援する制度を設ける
- 育児休業取得経験者が、自分の経験を伝えていく
- 事例紹介など、国や自治体による企業を後押しする取組が必要
- 父親も参加しやすい育児教室など、男性の育児を社会全体で応援する取組が必要

先輩育休  
パパから

- 「同じ子を持つ親として大賛成だ」上司の一言が後押し。

職場が気持ちよく育休に送り出してくれた

育休の取得には、まず職場の理解が不可欠です。私は育休取得の約一年前に、直属の上司に育休取得の意思を伝えました。その折に上司が「同じ子を持つ親として大賛成だ」と言ってくれたことが大変有難かったです。上司の了解を得た後に、私はその意図を職場のパートナー達にも伝え、一年間をかけて日常業務の中で引継ぎを行いました。育休の取得には、職場からのプレッシャーがあると耳にしますが、私の場合は、職場が気持ちよく育休に送り出してくれました。

- 職場復帰前の研修の実施などがあれば、育休からの復帰もスムーズ

育児休業が終わり、職場に復帰して挨拶をしたときに、皆から「おかえり、お疲れ様。」と言われたときは、とても嬉しかったことを思い出します。

私がいなくて、皆で仕事をフォローしてくれ、とても大変だったにもかかわらず、優しい言葉をかけていただき、とても感謝しました。その後は、感謝の気持ちと育休分を取り戻すため、精一杯仕事を頑張りました。

私の場合、育休の期間が1週間であり、職場の復帰にあまり苦労はありませんでしたが、期間が長いとその間の変更点などわからない点が多くなる場合があるため、職場復帰の前に研修を行うことも検討する必要があると思います。

- 会社の制度と環境が仕事と家庭の両立を後押し

有給扱いの育児休業制度があると妻に報告したら、「わが社にはそういう制度があるんだ」と感心すると同時に、気持ちの変化もありました。後ろめたさを感じながら休みをとるという気持ちから、「有給扱い育児休業制度」があることで、堂々と休んでいいんだという気持ちに変わりました。(略)

出産をサポートできる制度及び仕事と家庭が両立できる環境を会社が整えていること、またそれを奨励してくれることにも妻も喜んでいます。

1-02

「私の1年間の育児体験」

岩川幸二さん

- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代後半
- ④1年間

1-06

「パパ、頑張れ」

小島昌樹さん

- ①信用金庫職員  
支店長代理
- ③30代前半
- ④1週間

1-08

1-08

「育児休業制度等仕事と家庭を両立できる環境に感謝！」

鹿田寛記さん

- ①会社員
- ②300～999人
- ③30代後半
- ④1か月間



● 国や自治体は、事例を汲み上げ、職場の取組の後押しを

昨今の若い世代は、率先して家事や育児をやる傾向にあると聞きます。しかしながら、職場ではそうした声になかなか表に出てきません。国は号令をかけるだけでなく、地方自治体はその問題に正面から取り組み、これからの将来を担う 20 代・30 代を支援するための重要施策と位置づけるべきだと感じています。残念なことに、現状ではそうした声が届く手段が極めて少なく、その声を抹殺するような環境や状況があるのも事実だと思います。こうした状況を改善するための起爆剤となるよう、事例をうまく汲み上げ、良い方向に誘導していただきたいと考えています。

● 頼れる職員の存在と心強い職場の支援

ただ一つ気がかりだったのは、管理者である私が長期の休みを取った場合、職場であるグループホームの職員にかかる負担や、私が不在となる期間の管理業務等について職員が対応していけるかでした。このことを人事部長に相談したところ、「不在となる期間については、人員の支援をするので安心してほしい」との回答がありました。また、育児休業を取得したい旨を職場の職員に相談したところ、「何かあった時には電話連絡をして指示を仰ぐので、安心して奥さんを休ませてあげてください」と快く送り出してくれました。

● 自分の育休がまわりの人に影響を与え、よい方向に

育児休業中に会った職場の人からは、「育児休業を誰かが取得してくれないと、なかなか取りづらいついていたんだよ」とか、別の人からは、「育児休業を取得してみようと思っている人がいるみたいだよ」といった話を聞きました。実際に男性が育児休業を取得したという自分の行動がまわりの人に影響を与え、よい方向へ向かっていることを嬉しく思いました。

● 社会全体で父親が育児に参加しやすい環境が必要

一方で、父親が育児に参加しにくい環境があることも感じた。妊婦検診には父親は仕事を休みづらいため同伴が難しく、たとえ同伴しても診察室に同席しにくい雰囲気があるのも事実である。また産後の集団育児指導のほとんどは母親向けである。母乳を通しての繋がりも母親のみの恩恵であり、その上父親の仕事が多忙で赤ちゃんと過ごす時間が少ないと、育児の駆け出しの大部分は母親が担うことになる。そうしているうちに、いつの間にか「育児は母親、仕事は父親」のような性別分業ができあがるのかもしれないと思った。

社会全体として父親が育児に参加しやすい環境を作って欲しいと切に願う。男性の育児休業を積極的に奨励し、妊婦検診の同伴や出産の立会い、出産後数日の育児休業などは誰もが取れるようになって欲しい。また医療者側も、妊娠中から父親の参加をもっと促し、「母親学級」から「両親学級」へと名実と共に変更し、産後は父親が長時間滞在しやすい母児同室の部屋などアメニティの工夫も検討していただきたい。

1-09

「育児休業取得に伴う現状課題」

匿名

- ①公務員
- ④2か月間

1-12

「育児休業を取得して初めて見えた世界」

田中慎吾さん

- ①介護支援専門員・管理者
- ③30代前半
- ④1週間

1-13

「育児休業を経験して感じたこと」

田中知博さん

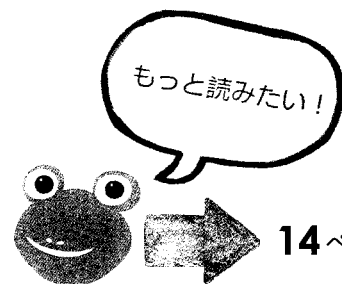
- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④3か月間

4-05

「育児休業に感謝！」

大塚亮平さん

- ①医師
- ②100～299人
- ③20代後半
- ④1か月間



## 2 育休取得は工夫次第

一見、敷居が高い育児休業も、工夫次第で取れるように。また職場が育児休業を快く受け入れるための秘訣とは？

先輩育休  
パパから

- 早めに育児休業取得の意向を職場に伝えることで、職場も対応しやすく
- 職場では、職員の育児休業を機に仕事のやり方を見直すなど柔軟な対応をとる
- 育児休業中のことを考えて、計画的に仕事を進めたり、情報の共有化を図る  
また職場のことを考えた仕事ぶりは、職場が育児休業を快く受け入れることにつながる
- 会社の制度を活用したり、育児休業を大型連休につなげるなどにより、取得しやすく
- 子育ての先輩である両親にもよく説明することが鍵。育児休業中も手助けが得られやすく
- 育児休業を取るんだ！という本人の意思がなければ、何も始まらない

### ● 仕事の流れや順番の見直しなど職場が体制づくり

上司や同僚には、妻の妊娠がわかった時点から、飲み会の席などで育児休業をとりたいと思う旨を伝えていました。最初は周りも「冗談かな」と思っていたかもしれませんが。正式に取得したい旨を伝えると、仕事の流れや順番など、仕事への影響が最小限になるように、検討をしていただきました。上司や同僚には大変感謝しています。このように職場での協力が得られたことも育児休業取得を決断する大きな一因となりました。

2-01

「私を変えた育児休業！ありがとう！！」

大牟田直人さん

- ①会社員
- ②5,000人～
- ③30代後半
- ④1か月間

### ● 早めに相談することで、職場も体制整備が可能に

二人目の子が授かったことが分かった時、私は直ぐに上司に相談し、妻の産後休暇の時期に重ねて育児休業を取得したいと伝えました。当時の上司は理解のある方で、快諾してくれた上、仕事と育児休業のバランスに配慮して係を異動させてくれました。また、異動先でもベテラン職員の方々を中心となって、育児休業中の私の仕事を分担して引き受けてくれました。このような職場の支援があったお陰で、私は、復帰後わずか1週間程で仕事のリズムを取り戻すことができたのです。

2-04

「育児休業が私に経験させてくれたこと」

高谷彰さん

- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④2か月間

### ● 休業中のことを考えてできる限り仕事を進めたからこそ、

すっきりとした気持ちで育休に入れる

一旦、取得すると決まったら、休業中のことも考え、できる仕事は全て済ませておきたいと思いました。もちろん限度はあります。ですが、そうした気持ちで仕事に当たってこそ、助けてくださる周囲の方々に素直にお願いできるのだと思います。

私は、ある報告書の作成に携わっていました。その完成まで見届けることはできませんでしたが、方向性が決まるまでのプロセスはやり遂げたという想いを持つことができ、すっきりとした気持ちで休業に入ることができました。

2-05

「自分にとって大切なこと」

匿名

- ①公務員
- ③20代後半
- ④2か月間

● **ゴールデンウィークとつなげることで仕事の調整も付けやすく**  
 短時間勤務等の制度が進んでいることもあり、上司や職場の理解は得られていたと思います。  
 ゴールデンウィークを含めた連続 3 週間という短期の休みでしたので、仕事の調整も付け易く、障害となる様な事はありませんでした。

● **人事面談のたびに子供が生まれると取得したいと伝えつづけた**  
 次に勤務先とのやりとりですが、そもそも妊娠が判明する遥か以前より、人事面談において毎回欠かさず「子供が生まれると取得したい」と伝え、男性も可能と確認してきました。また現在の所属部署の上司にも、面談の度に話題に出し、様々な準備をお願いしてきました。

● **育児休業を受け入れやすいマネジメント体制の整備が必要**  
 「男性の育児休業取得が難しい」ということばかりが目されるが、働く女性が産前産後休暇・育児休業を取得する場合にも本来同じ問題があるはずである。使用者側における従業員が抜けることの影響も、休業者側におけるキャリアへの影響や復帰時の不安なども男女を問わないものである。出産・育児により職場に何らかの影響があることは本来当たり前ではあるが、現実には従業員が抜けた穴を埋めることは職場にとって大変であることから、個人ではなくチームで仕事をするようなマネジメント体制をなるべく整えるべきである。

● **両親には、育休取得についてよく説明することが鍵**  
 私の親の場合、母はある程度理解してくれましたが、父が一番反対しました。父にとつての初孫を、男である私が子育てできるわけがなく、死んだらどうするとも言われました。無理ありません。育休は制度的に交代が可能で、私が子育てしてダメなら妻と交代するという条件で渋々了承を取りつけました。

両親への説明は、子育て中様々な面で手助けしてもらおうことを考えると大切です。男性で育休を長期で取得されたい方は、よく説明することが必要だと思います。

娘が生まれた後 1 ヶ月間は、妻の実家に泊まり込み、義理の母から実地で指導を受けながら子育てを始めました。赤ちゃんの抱き方一つわからない私には貴重な経験でした。

● **父親の代わりはいないが、仕事場では代わりがきくんだと割り切って育休を取得**  
 最初の子の時、妻は「当然、取るんでしょ」と、育児休業制度があるのに、それを利用しないなんてことは想像もしていなかった様子で、そのつもりで出産と出産後の計画をたてていた。「これって、絶対取らなきゃいけないのか」と自問した。「絶対か?と問われれば、特に、そういうわけでは」という言葉をぐっとのみこんで、決意した。妻との約束もあり、それにお腹にいるころから、話しかけてきた子どもの、せめて生まれたばかりの頃ぐらいは、世話をしたいという思いがあった。子どもに父親の代わりはいないが、仕事場ではいくらでも代わりがきくんだ、と割り切った。

2-08  
 「育児体験記」  
 三石真裕さん  
 ①会社員  
 ③30代前半  
 ④3週間

1-07  
 「人生の貴重なひととき」  
 小林武さん  
 ①会社員(金融)  
 ②100~299人  
 ③30代後半  
 ④10か月間

1-14  
 「やっぱりハードルは高い? ~育休を体験して~」  
 田中雄造さん  
 ①公務員  
 ②1,000~4,999人  
 ③30代前半  
 ④7か月間

1-16  
 「新米パパの手探り子育て」  
 西迫博さん  
 ①会社員(人材派遣業)  
 ②1,000~4,999人  
 ③30代後半  
 ④1年6か月間

4-27  
 「男だって 育休くらいは」  
 吉田昌哉さん  
 ①団体職員(非営利団体含む)  
 ②0~99人  
 ③30代後半  
 ④3か月間



## 3 育児で深める絆

育休を取ったことで、共有できた妻の気持ち。子育てをすることは、家族の絆が深まるとともに、職場や地域の人とのつながりを強めることにも

先輩育休  
パパから

- 新しい家族を迎えるときに、夫婦で将来についてじっくりと話し合うことができた
- 妻の気持ちが理解でき、妻にも一人で過ごす時間が必要であること、妻の話を聞くことが大切だと認識。また、妻にも好きな仕事をして欲しいと思うように
- 夫婦で協力して育児をすることで、お互いに余裕が生まれた  
さらに、時間と心に余裕ができたことで子どもを誉めることが多くなり、子ども同士も誉めあうように
- 子どもがパパっ子に
- 「ママ友」や「パパ友」ができたり、地域や子どもの友達とのつながりができた  
また、子どもの話の中の登場人物がわかるようになった
- 職場とのつながりを再認識できた

- 育休は終わっても、息子との絆や妻との信頼関係は大きな財産に  
復帰初日、久しぶりのスーツに着替え「今日からパパも仕事だよ。」と宣言した時には大いに息子に泣かれてしまったが、これだけパパ好きになったというのは育休の成果だろう。育休生活は終わったが、息子との絆や妻と深めた信頼関係は終ることなく私の大きな財産となるはずである。

最後に、私の育休の話になると「素敵なお主人。」「格好良いパパですね。」と妻は周囲から羨ましがられたらしい。まだ少ない男性の育児休業を後押ししてくれた妻と理解を示してくれた職場や両親、素晴らしい生活を与えてくれた息子に改めて感謝したい。そしてやはり「格好良いパパ」がもっと増えて欲しいし、男女を問わず育児に専念する者がもっと評価される社会になって欲しいと切に願っている。

- 育児の大変さを知り、妻の時間を大切にしたいと思うように  
私は仕事を言い訳に育児から逃げていたのだと反省する事が出来ました。妻には一人で過ごす時間を大切にしたいと考えられる様になったのも、この経験があったからだと思います。仕事復帰後は、早く帰宅し、子供と出来るだけ会話をし、妻の手伝いも心掛けています。

- 妻と一緒に家事や育児をすることで時間と気持ちに余裕が生まれ、子どもたちを誉めることが多くなった  
こうしてスタートした育休。この5ヵ月半は私たち家族にとって夫婦、親子、兄弟姉妹の絆をこれまで以上に深める貴重な機会になったように思う。妻と協力し合って育児家事をすることで時間と気持ちの余裕が生まれ、子どもたちに対して叱るよりも誉めることが多くなった。そして親のそうした変化は子どもたちにも伝染。子ども同士もお互いを誉めることが増えてきた。

- 3-01  
「格好良いパパ」になって」  
荒井清生さん  
①公務員  
②1,000～4,999人  
③30代前半  
④6か月間

- 3-02  
「家族」  
岩間昌生さん  
①動物園飼育係  
③30代前半  
④1か月間

- 3-06  
「勇気を持って一歩を」  
桐野吉弘さん  
①会社員  
②1,000～4,999人  
③30代後半  
④6か月間

● 家族や、悩みを分かち合える「ママ友」や、飲みに誘ってくれる仕事や趣味の仲間たちが、育児を支えてくれた

最も不安だったのは、育児面。ママでなければどうにも乗り越えられない育児の局面がたくさんあるのではないかと、ということだ。しかしスタートしてみれば、これも杞憂だった。ちょうど僕の育児開始にあわせて卒乳が上手くいったこと、また、近所の「ママ友」たちが、僕に選手交代した後も変わらず仲間に加えてくれて、悩みを分かち合い、一緒にリフレッシュしてきたこと、そして仕事や趣味の仲間達が、時折、飲みに誘ってくれたこと。妻と、ススムと、大切な仲間が、僕の育児を支えてくれたのだ。(略)

最終日、育児休業の日々を記したブログを僕はこうしめくくった。・・・仕事はチーム・プレー。代役は必要。でも、ススムの父は、妻のパートナーは世界で僕だけだ。理想論かもしれないけれど、明るい家庭がよい人間を育て、よい社会をつくるに違いない。だから、何より、家族と、そして自分自身が大事なんだ。「あなたの子でよかった」と僕が親に思うごとく、いつかススムが僕にそう思ってくれるように、そうして家族の絆がいつまでも続くように、心から願う。

● 夫の育休取得後も休む間もなく育児に明け暮れる妻に、いつか好きな仕事をしてほしいとの思いを強くした

本当に重要なことは、「育休を取得すること」ではなく、「育休中に何をし、何を得られたか」ということなのだ。3人目が生まれた今も、妻は当然休むまもなく育児に明け暮れている。これが本当の育児だ。育休取得後、妻にもいつか好きな仕事をしてほしいとの思いがより強くなった。最近では自分の仕事が忙しく、平日に夕食を一緒に食べることが減ってしまった。まだまだ反省すべき点は多い。やはり少しでも長く子どもの成長を間近で見ていたい。今いろいろな思いが頭の中で蠢いている。仕事をしないと生きていけないという決定的な事実も存在する。ただ、夢を実行に移したことは、仕事でも積極的に主張すれば実現できるという自信を与えてくれたのも確かだ。自分自身の働き方も積極的に変えていかなければならない。

● 新しい家族を迎える変化のときに、安心して過ごせた

休業期間はあっという間に過ぎましたが、私と妻には子どもが増え、息子は兄になりました。この大きな変化の中、家族が共に過ごすことができました。休業を取得してもしなくても、子どもへの愛情が変わることはないでしょうし、短期間の休業が、その後の成長を左右するとも思いません。ですが、私は、本当に良かったと感じています。家族のそれぞれにとって、大きな変化が生じる時期に、私も妻も安心して過ごすことができました。

● 育休中に子どもたちの友達とも一緒に遊んだことで、

子どもの話の登場人物がわかるように

子どもたちの友だち関係が分かったことは、復帰した今でも役立っています。休業中、自分の子どもだけでなく、子どもの友だちにも自分の子どもと同様な接し方をしようと思い、遊びにきた友達が挨拶をしなないと注意したり、公園で一緒に遊んだりして、積極的に関ったことで名前と顔を覚え、その後、子どもの話の中に出てくる登場人物が手に取るように分かることは、育休を取らないと出来ないことでした。また、それに付随してPTA活動に参加したり、保育園のイモ掘りに参加したりして、親同士のつながりや先生、保育士さんとのつながり、地域とのつながりができたことはその後の生活に潤いをもたらすものでした。

3-13

「絆(きずな)」

平林陽さん

- ①公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④1年間

3-16

「夢の実現」

吉田大樹さん

- ①出版業、記者
- ②0～99人
- ③20代前後半
- ④1か月間

2-05

「自分にとって大切なこと」

匿名

- ①公務員
- ③20代後半
- ④2か月間

4-17

「ジョン・レノンを目指して」

高野通宏さん

- ①会社員
- ②1,000～4,999人
- ③30代後半
- ④3か月間



## 4 楽しむ子育て

育児休業の醍醐味は、子どもと一緒に過ごせること。パパたちの子育てとは？

先輩育休  
パパから

- 母乳が出ないことがパパ育児の関門。昔ながらの方法で乗り切った
- 家族でいろいろな料理にチャレンジ！
- 思い通りに進まないことはあるけれども、徐々に赤ちゃんが何を要求しているのかわかるように
- 今までは人から教えられた我が子の「初めて」。育休取得でその瞬間を自分の目で
- パパもママも一緒に育児スタートすれば、パパも子育てを続けていける

- なかなか寝てくれないわが子。行き着いた方法は「おんぶ」

そこで、何とか気分よく、1時間でも2時間でも寝てくれないかな、ということが育休初期の課題になりました。ところが、今まで、おっぱいを飲みながら、気分よく寝ていた息子は、おっぱいなしにはなかなか寝てくれません。そんななかで、苦心した上で編み出した方法が、昔ながらのおんぶでした。10キロを超える息子をおんぶして、ときには1時間近くも歩き続けることもありました。後になって聞いたことですが、近所のお年寄りの中では、「近頃、赤ん坊をおんぶしている男の人がいる」とちょっと気になる存在であったようです。おんぶをすると、背中が暖かさなのか、気分よく寝てくれたので、それが日課となりました。知り合いの子どもからは、「オンブマン」と呼ばれるように。そして、そんな規則正しい生活のせいか、私が5キロもダイエットすることにもなりました。

4-02

「オンブマン」

石井聡さん

- ①公務員
- ②300～999人
- ③30代後半
- ④1年間

- 餃子作りに悪戦苦闘！仕事帰りのママの登場でおいしい餃子が完成  
育休後半。パン作りを皮切りに子供達との料理に味をしめたパパは餃子作りを計画しました。上2人は野菜切りの大事な戦力。ところが相次ぐ流血騒ぎ(ちょびっとですが)。娘はもらい泣き。時計の針だけは絶好調。そして妻の「ただいま～」のご機嫌な声。餃子になると思われる具と皮を見つめる妻。沈黙。餃子の皮ならぬ暗黒に包まれていく我が家……。

その時、妻が光を照らしてくれました。笑顔に切替え腕まくり。パパのこねた皮に子供達の具をママが包んで、最高に美味しい餃子が出来ました。仕事で疲れているのに「もう一歩」。笑顔で頑張る妻に感動しました。夫が育休を取っているのが仕事上プレッシャーになっているはず。諸々を飲み込んで前に進む妻の覚悟。頭が下がります。う～ん、ビールが美味しい！

ところで、成功したチャレンジも勿論あります。幼稚園バザー-用手芸品作り、上2人の勉強机DIY、わらべ歌と子守歌のレパートリー百曲、中高一貫校でのスポーツ講演会etc.。地域活動にも参加出来ました。

4-11

「夫が父に変わるとき-2回目  
目のプロポーズ」

斎藤仁丸さん

- ①会社員
- ②5,000人～
- ③30代後半
- ④1年6か月間

● 子どものとびきりの笑顔につられて、時間も忘れて一緒に笑った  
 育児休業中の役割は、お風呂、布おむつや衣服の洗濯、寝かしつけなどです。一緒にいることで、ちょっとしたサインにも気付きました。縦抱きじゃないとぐずる、声をあげないあくびは眠い時に必ずする。何気ないしぐさ一つひとつに立ち会えたこと、何を要求しているのかを肌で感じられたことが、子育て中の醍醐味でした。大変だったのは授乳です。取得期間中に望んでいた、妻が外出し子どもとふたりきりの時間を持った時のことです。母乳を冷凍して保存しておいたのですが、人肌に温めてからでないとい飲ませられないので、準備に時間がかかってしまう。妻から目安として3時間間隔と聞いていたので、頃合をみてやってみたものの・・・涙を流しながら泣く姿には、ただ「ごめんね」としか言えませんでした。でも、お腹が満たされればとびきりの笑顔に変わるので、時間も忘れて一緒になって笑っていました。

4-12  
 「短期間でも取得できる育児休業」

坂下和広さん  
 ①地方公務員  
 ③20代後半  
 ④2週間

● 子どもの「初めて」の瞬間に出会えたのは、育休のおかげ  
 実際に育児休業に入ると、オムツの洗濯や離乳食作り、またその他の家事などやるのが盛りだくさんで慣れるまではかなり疲れました。子どもが寝ている時間しか掃除や洗濯をこなす時間はないわけですが、その頃私の子どもは抱っこをしていないと目を覚ます状態でしたので、ハイハイする我が子を気にしながら掃除や洗濯をするということになってしまいました。これがなかなか難しく、工夫しながら何とか家事と育児をした記憶があります。しかし、そんな中、苦勞をしながらでも育休中は子どもとずっと一緒ですから、つかまり立ちが初めてできたり、伝い歩きを初めてしたりといった瞬間を見ることができました。保育園に預けていると、できましたよと報告された後でそれを見ますのでやっぱり感動が全く違います。そんな瞬間を父親の私が見ることができたのはやはり育児休業を取ったおかげなのかなと思っています。

4-19  
 「私の育休体験記」

匿名  
 ①公務員  
 ②300～999人  
 ③20代後半  
 ④2か月間

もう一つ感じたことは、仕事をしていると時間があっという間に過ぎてしまいますが、子どもと2人の時間はゆっくり流れていた気がします。そのゆったりとした時間の中で過ごすことで、私も和やかな気持ちで育休中は過ごせた気がします。子どもの少しの成長を間近で見ることができた幸せは仕事に復帰した今、改めて感じているところです

● 子どもが生まれたときから親子三人四脚なら、  
 パパだってママと同じように子育てできる  
 近所の育児教室で、よそのお母さんから「パパが抱っこしても泣かないのね」と言われました。

4-22  
 「育父休暇」

宮下拓さん  
 ①会社員  
 ③30代後半  
 ④2か月間

生まれてからずっと抱っこし続けて、下手なりに子が慣れてくれました。育休をとらなかつたら、同じように泣かれて「俺じゃだめだ。ママお願い」となったかもしれません。おむつ替えも同じことでしょう。母子の二人三脚に父親が途中から参加しようにも、すぐに足並みがそろわない。だから父親は早々に自信を失い、育児から脱落してきたのでしょう。ヨーイドンから三人四脚なら、パパだって、抱っこもおむつも、ママと同じように普通にやれるのになあ、と思いました。

数十グラム増減しては一喜一憂し、へその緒が取れたことに驚き、夜泣きて途方に暮れ、ベビーバスの排泄に慌て、あくび、くしゃみなどに笑う毎日。日々ささやかな感動を妻と共有できた2ヵ月間でした。



## 5 育休取得の効果

育休経験がもたらした育児と仕事の好循環。育休がもたらしたさまざまな変化

先輩育休  
パパから

- 子育てすることで、人間的に成長。思いやる気持ちや謙虚さを身に着けた
- 育休中の経験を基に、仕事で、コミュニティ活動で、さらに活躍
- 育休に快く送り出してくれた職場に感謝。仕事にも一層力が入るように
- 育休取得者の登場で、職場が成長
- 夫婦両方が家事も育児もできるから、お互いにフォローし合える関係に
- 仕事の質と速度を向上させて早く帰ることで、仕事も生活も充実

● 思いやる気持ちが一層強くなり、部署のメンバーやお客様とのコミュニケーションなどを大切にしつつ困難なテーマにチャレンジ  
結局、3週間の育児休業であったが、私にとって非常に有意義な時間であった。赤ちゃんと一緒にいられたことは、個の尊さ、周囲の協力への感謝を想起させ、人を思いやる気持ちがますます強くなった。このことは、今、私の仕事に取り組む姿勢に繋がっており、部署のメンバーやお客様とコミュニケーション、コラボレーションを大切にしながら常に困難なテーマにチャレンジしている。仕事と生活の両立は何よりも仕事面で高いパフォーマンスを上げるために必須であると強く感じた。家族、上司を含め、協力してくれたすべての方には感謝の気持ちでいっぱいである。

5-02

「自分の成長のために」

岩上誠さん

- ①会社員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④3週間

● 夫婦両方に子育てに対する当事者意識が根付き、一方が多忙でも他方がフォローできるように

夫婦両方が休業を経験することで、子育てに対する当事者意識が均等に根付きます。そうなれば、一方の仕事が多忙なとき、他方が育児をフォローできる。「両立」が容易になります。私の場合、保育園入園につながる期間に休業したため、必然的に入園の準備や手続きを担当することになり、妻よりも保育園に詳しくなりました。その勢いで、学校についても主に関わるようになり、妻に偏らない、我が家独特の育児分担が確立しました。それが一番大きな効果です。育児時間を確保するため、職場では定時退庁や計画的な休暇取得を意識するようになり、以前にも増して効率的な業務遂行を心がけるようになりました。

5-05

「育休はパパを「子育ての当事者」にする」

阪本真一さん

- ①公務員
- ②300～999人
- ③30代後半
- ④6か月間

● 経験を活かして男性の子育て参画促進に向けて積極的に活動

また、育休後も、

- 後輩からの相談にのり、男性の取得第2号（それも9か月間）誕生に貢献
- おやじの会の全国組織「おやじ日本」の創設と運営への協力。PTA活動への参画
- 職場の「特定事業主行動計画」策定への協力（経験からの助言）
- 出向先（三重県）での体験談の講話（県庁職員や県立高校職員会議に対して）など、経験を生かして男性の育休取得や子育て参画促進に向けた啓発活動に努めることはもちろん、保育園の送りは毎日、迎えも週2日以上は担うなど、ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方・生き方を実践し、身をもって範を示しているつもりである。

5-08

「文部科学省で初めて育休を取得して」

坪田知広さん

- ①国家公務員
- ②1,000～4,999人
- ③30代前半
- ④3か月間



● 育休取得で「家族という味方」と「会社という味方」の存在に気づく

たった2週間の育児休業取得であり、2週間で育児の何がわかるのか?と笑われるかもしれませんが、この機会がなければ、育児に主体的に関わるどころか、育児を考えることさえ全くなかったはず。育児休業は家族に対する私の考え方を考える大きな転換点となり、私の人生にとって大変価値のある体験でした。

育児休業を取得するまでは、家族のため、会社のためと口では言いつつも、何か孤独で心の中では自分のためだけに働いていた私であったと思います。今回の育児休業をとおし、家族の大切さを学び、「家族という味方」と、このような機会を与えてくれ、積極的にサポートしてくれた「会社という味方」の存在に気が付くことができたことで、今まで以上に一層仕事にも力が入るようになりました。

● モタモタしてられないという気持ちを原動力に、仕事の速度と質を向上

以前よりも労働する意義を明確に感じるようになりました。自分の親が自分にしてくれたように、我が子を大きくする為に働くのだという事を自然と思うようになりました。また、仕事の速度を上げて定時内で仕事を終わらせる意識、終わらせなければいけないんだ、という意識(こんなところでモタモタしてられない。判断の質と速度を上げ、アウトプットのクオリティを高めた上で、さっさと家に帰らねばならん・・・という気持ち)が以前よりも強くなりました。実際、復帰して以降、殆ど残業はしていませんが、仕事のアウトプットは変わらないか却って上がったかも知れません。上司の評価もまずまずです。

● 育休取得者の登場がもたらした職場の成長

育児をすることが仕事の能力の向上に結びつくかのような議論があります。私にはどうかはわかりません。私は同僚に子育てのため仕事で迷惑をかけていますが、同僚たちは暖かい眼差しで見守ってサポートしてくれます。それは育児休業を取るため、私の置かれた家庭の状態を認識する機会があったからだだと思います。そして同僚たちは私のフォローをして人間のキャパシティを広げています。しかし私自身は、仕事と家庭との綱渡り、仕事や人間的な能力向上どころではなく、日々、子どもに金切り声をあげる回数が増えているのが悩みです。

● 夫婦で逆の立場を経験したことで、お互いに心身両面でサポートしあえるように

4月から保育園に預けて職場へ復帰。二人ともひととおりこなせるので、仕事量にあわせて家事育児を分担したり、交代で息抜きしたりと、多忙な共働き生活乗り切りのための大きなアドバンテージになっています。女性が子育てしながら仕事をするのは、心身両面で想像以上に大変です。お互いが逆の立場に立ったことで、相手の気持ちも分かるようになり、心身両面でサポートしあえることが、男性の育休経験の最大の利点だと思います。

5-13

「育児休業を取得して」

箕浦壮志さん

- ①会社員(金融)
- ③30代前半
- ④2週間

5-14

「尚子との育児休業体験記」

山本武さん

- ①会社員
- ②5,000人～
- ③40代前半
- ④3週間

3-07

「赤ちゃんとの初めての生活」

黒川滋さん

- ①団体職員  
(非営利団体含む)
- ②0～99人
- ④5か月間

4-18

「宝物」

竹内康二さん

- ①会社員  
(環境保全型会員制宅配業)
- ②100～299人
- ③20代後半
- ④3か月間



「仕事の交代要員は何とかできる。けれど奥さんの交代要員は君しかいない」との言葉に励まされた

## 育児は「育自」



大岩 泰治さん

私は今年6月中旬から9月末までの3ヵ月半、妻の長女出産に当たって育児休業を取得しました。それは「長男の幼稚園通園があり、里帰り出産が出来ない」、「お互いの両親の援助が難しい状態である」ためでした。また、妻自身も今回の妊娠中は自宅安静を要する状態となり、心身共に大変だった事もきっかけの一つでした。

取得期間の検討について最初は「1ヵ月だけ」と妻と話をしておりました。長男の夏休みや妻の健康面を考慮して3ヵ月半に期間を延ばし会社の上司に申請しました。今回の事では妻も「両親は家業があり、遠慮が出てしまうためフォローがあった事は精神的にも楽になった。」と話しており、取得は意義深かったと思います。

今回の申請に当たり自分が調剤薬局の店長を任されている立場であった事や、休業開始が定期的な人事異動後になってしまうため、会社には迷惑をかけてしまうという思いは拭えませんでした。しかし会長から直々に声をかけていただき、その際いただいた言葉が「店長や薬剤師の交代要員は何とか出来る。けれど奥さんの交代要員は君しかいないのだから、その仕事をきちんと頑張りなさい!」でした。

その言葉に励まされ、本部の皆様はじめ店舗のスタッフにも快く送り出していただけて、後任の店長とも引き継ぎを無事終えることが出来ました。店舗をご利用されている患者様にも「残念だけど、頑張ってください。」と励まされた事にも感謝をいたしております。その後も復職してからの時短勤務や自宅近くの店舗への異動も配慮していただき、引き続きサポートしやすい環境を作っていただく事が出来ました。

今までよりも長時間、長男と触れ合う時間が増えた事で言葉の発達、幼稚園での出来事を楽しそうに話す子供の成長を目の当たりにする事が出来ました。以前は何でも妻でないとダメでしたが、今ではお風呂と寝かしつけは私の方が良いと言ってくれています。仕事で帰りが遅くなっていた時は断片的にしか見られなかった小さな成長や長女を可愛がる様子は自分にとって貴重な体験でした。

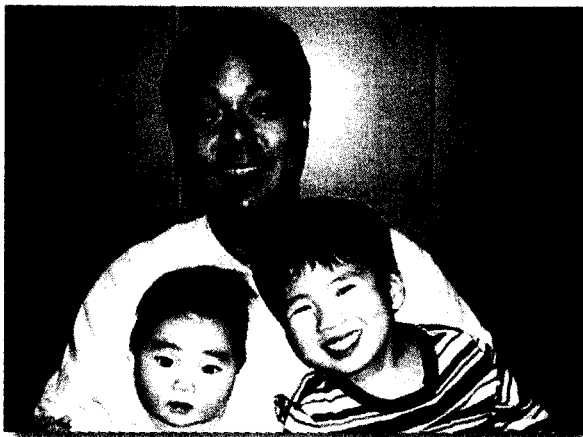
幼稚園の送り迎えても先生方やお母さん達と話す機会が増えた事で、自分の視野が今までよりも広がった様に思います。園児からもスーパーなど園以外でも「こんにちは。」と声をかけられ、覚えて貰えた事は非常に嬉しいです。

以前、自分では店長として「ワーキングマザー」に対して配慮をしているつもりでしたが、自分が育児をする側に立つと、家族の体調管理や時間の制約など両立の大変さがよく分かり、まだまだ意識が不足していたと感じました。

この3ヵ月半の育児休業が長女はもちろんですが3歳の長男にもどの位、記憶に残るかはわかりません。しかし、自分自身にはとても貴重で有意義な時間が得られたと思います。友人からの手紙に「育児は育自だよ」とあり、まさにその通りでした。

この休業制度について相談された時には胸を張ってアドバイスし、取得される方や新しい世代への成長の一助になればと考えております。そして将来的に男性の育児休業が社会的に認知され、今以上に取得しやすい環境が整備されると良いと思います。

最後にこのような機会を与えていただいた会長はじめ社員の皆様一同に感謝いたしたいと思います。



執筆者の横顔：

- ①会社員（調剤薬局店長）、②100人～299人、③40代前半、④平成20年6月～9月（4か月間）



育休を取得するという強い意思と何をすべきかを真剣に考えることが、育休を温かく受け入れてもらう鍵

## 私の育児休業を振り返って



於久 英樹さん

「明日から名古屋で仕事だな。」振り返れば、長い育休もあっという間に過ぎ去った。GWを含めて、約3週間、家事と育児で一色の毎日の中の出来事を思い出し、家事の大変さを再認識し毎日やっている妻への感謝の念が湧き上がる。

家事には、「時間が無かったから」と言う事は出来ない。「時間が無かったから今晚はお風呂と御飯は無いよ」とは言えないし、思いがけない事も起きる。子供が怪我をしても、逃げ出す事は出来ない。

仕事も別の意味で大変だけど、「まあ、明日でもこれは良いなあ」と言う所もある。家事は、毎日高度な段取り組みを求められ、それをやっていかないと終わらない類の仕事。その中で育児もする妻はすごいと感服する。

娘が生まれる4ヵ月前に社内規定が変わり、男性でも子供が2歳になるまでに育休を取得出来る事を知り、直ちに取得を決意。時期は、後で周囲と相談すれば良いと考えた。

その後、名古屋への転勤がちらほら聞こえて来て、生まれる2ヵ月前に転勤が決定。家族会議（と言っても妻と息子と私の3人）で、私は名古屋へ単身赴任、新年度が始まったら、直ちに、育休を取る事にした。

と言うのも、息子も小学一年生になり、環境の余りの変化に妻への負担の大きさは想像がつかず、兎に角、娘の首が据わる3ヵ月間は出来る限りの人手がいると言うのが二人の結論だった。

会社の同僚、上司には、「育休を取る」と機会があれば言い続け、同時に、自分の仕事は、細大漏らさず何でも巻き込み、取得2ヵ月前から自分が不在でも業務に支障の無い体制を目指した。特に、不在中に迷惑をかける海外駐在員にはその間の代役をお願いし留守中に備えた。

同僚、上司には我が家と同じ年頃の幼い子が居ると言う事も幸いし、多くを語らずとも理解を得られた。

娘が生まれ、新年度となり、いよいよ育休に突入。妻は夜も定期的に母乳をやるので、朝食の準備は私の仕事。パンを焼く程度ながらも、慣れずにあたふたとしている自分を感じる。息子を起こし、せっつきながら、朝食を食べさせて、どたばたと送り出す。

その後に、掃除、洗濯をして妻が起きてくる。洗濯をしながら、普段から家族が清潔な服を着る為に使っている妻の労力の大きさを考え、平凡な事を続ける事の非凡さの大切さを実感する。

夜は、おっかなびっくりしながら、生まれたばかりの娘をお風呂に入れて、どたばたと息子も風呂に入れて寝

かせる。

そんな中で、毎日、娘だけでなく息子の成長も実感出来る事に幸せを感じ、いつまでもその幸福が続いて欲しいと願っている自分が居る。

子育てと言う言葉は、大人の側からの目線の言葉で、共に育っていくのが本当ではと思う。「教育」ではなく「共育」。子供が教えてくれるものは、本当に無限。無邪気なもの、新鮮なもの等々千差万別。大人の凝り固まった頭を解きほぐしてくれる、ある意味、掛け替えの無い癒しかも知れない。

仕事と家庭の両立は難しいと言うが、それは多分、自分次第。二者択一と言う単純なものではなく、周囲と常に話し合っ理解を得ながらバランスを取るのだと思う。その中で、一つだけ明確な事がある。家も仕事も一生懸命であれば、両方共に上手く行く。

仕事に復帰して、ただちに1ヵ月間の海外出張となった。けれども育休のお陰で家がしっかりしていると感じられ、余裕をもって仕事に向かい合え、且つ、集中度も高くなる。家庭に帰れるのを楽しみにしている自分が居て、本当に良いスパイラルになる。

掛け替えの無い家庭と家族。その為に育休が取れないのではなく、取るという強い意志を持って、どうするかを真剣に考え、一日一日を真摯に過ごしていれば、自ずと温かい視線で職場でも受け入れて貰えると思う。

2度と無いその時に接せられるのは、大きな幸せだと私は確信しています。



執筆者の横顔：

- ①会社員・課長、②約3,000人、③40代後半、④平成20年4月～5月(1ヵ月間)

難しい出産、支えられるのは自分だけ。妻とじっくり話し、共有した未来像。家族はやっぱり宝物

## 家族は宝物



川島 光博さん

今年の6月それはいきなりやってきた。

お腹の赤ちゃんに脳室拡大の疑いがあります、と。

2年前長女が五体満足で誕生していたこともあり我々夫婦への衝撃は、はかりしれないものだった。

その後の検査で、水頭症と二分脊椎の合併症が確認され、誕生後の障がいについても説明がされた。

出産は、帝王切開でさらにすぐの複数の手術が必要であり、対応できる病院がなかなかみつからなかった。

しかし、妻の実家のある高知県で対応してくれる病院が見つかり、里帰り出産を選択した。

この時、私は出産時から出産後の妻のケアをできるのは旦那である私だけだと思い一緒に高知に帰り育児休業を取得することを決意した。

幸い、私は子育て支援サービスを提供する会社に勤めているため、社長もすぐに理解を示してくれた。とはいっても立ち上げてまだ2年目のベンチャー企業であり私も事業本部長という立場であるので一時的であっても抜けることは、会社に対し迷惑をかけるという気持ちが強くあったが社長はじめ会社の理解があり出産予定日前に引き継ぎを完了させ、継続して確認が必要なものは、ノートパソコンや携帯メールに質問連絡をしてもらうことで対応することとした。

通常分娩と違うため、ドクターからの複雑な説明も多く、妻は精神的に不安定になっていたため、育児休業の話をしたときはとても喜んでくれた。一方で今後の職に問題がでないのか妻として不安があったようだが、幾度も今後のことを妻と話をすることで不安も払拭できた。何よりも今回の育児休業がきっかけで妻と多くの話をする機会が増えたことは間違いない。

8月26日無事長男は誕生した。

障がいがあることがわかった日に名前は決めていた。

どんなことがあってもいつでも一緒にがんばっていこう、一心同体だよという気持ちを込めて一心（いっしん）と名付けた。

一心は予定通り出生後すぐに手術室に運ばれ、（私も同時に呼ばれ一心の体の状態を確かめ同意書を記入し）水頭症のシャント術と二分脊椎の手術が開始された。

出生後わずか数時間の一心が約半日に及ぶ大手術に挑み、見事手術は大成功し我々はホッとした。

その後、誕生したばかりの一心の入院手続きや術後の経過説明など動けない妻に変わりすべて私が対応した。

その後、一心の術後の経過がよく予定より半月も早く退院を迎えられた。退院後は、妻の両親・4兄弟が協力をしてくれるということで、一時東京へ戻り、今は育児

休業を終了し検診などにあわせて公休日を調整し必要時期に高知に戻るようになっている。

今回育児休業を取得し感じたことは、とにかく出産は妻への負担が多いこと。確かに、普通分娩でなかったからかもしれないが、上の子が生まれる時も出産の大変さは、わかっていた。

休業中には、妻とたくさん話をする機会もあり今後の子育てについても互いに意見をゆっくりじっくりと話し合うことができた。

出産の時こそこれからの未来像を互いに話し合い意思の疎通を図るべきであり、それが、夫婦円満にもつながると感じた。

今の日本にはまだまだ育児休業の取得が復帰後の出世に響くとか取得することは悪いことだという雰囲気があるのが現状だと思う。

現に、育児休業を取得すると友人に話をした時、口をそろえていい会社だね。とみんなが言う。

こういう声がある以上日本は、出生率も下がり離婚数も増え続けると思う。これからの日本を支える若い命と力を担保していくには、もっと育児休業取得が義務づけられるほどの変化が日本には必要なのではないか。

職場に復帰後も公休の調整など会社側が全面的に理解・支援してくれている。これが当たり前になることを私は望む。

家族は宝物。育児休業を取得したことで、さらに強く感じた。

気づきの多い期間であった。



執筆者の横顔：

- ①サービス業・事業本部長、②0～99人、
- ③30代前半、④2週間



泣くことでしか意思表示ができない赤ちゃんの心にじっくり耳を傾ける、そんな大切さを再認識

## 新米おとうちゃんの育児奮闘記



奥 博史さん

平成16年正月、第一子の娘が誕生しました。当時、産業カウンセラーの勉強を始めていた私は、乳児期からの親子のスキンシップが大切と感じていました。妻は期間雇用での育児休業中で、産後復職して3月末の任期までは続けて欲しいと思いました。たまたま手にした厚生労働省の広報パンフレットで、パパイヤ鈴木さんの「パパ！（育児が）イヤなんて許されませんよ。育児休業をとりましょう、お父さん。」という文言が琴線に触れました。私自身、育児はやってみたいし、2ヵ月くらいならできるだろう、やってみる価値があるぞと奮い立ち、育児休業を決意しました。

幸い私の仕事は、企画業務で裁量を与えられ、年度目標はほぼクリアできそうな状況でしたので、すんなり職場の上司、同僚の理解と協力が得られました。代替アルバイトも雇われることとなり、休業前に最大限事務処理をこなして引き継ぎ、妻が産後復職した2月から3月にかけての2ヵ月間、育児休業を取りました。

実際育児休業中は、生後間もないわが娘にてんてこ舞いの毎日でした。朝、妻を見送ってからは、泣かれるたびにミルクか？おむつか？それとも眠いのか？と右往左往、育児本が頼りでした。そして、時間間隔や吸飲量を気にしながらミルクを調整し、飲めば背中叩いてゲップを出させること、おむつを替えること、わが娘の細い首根っこを親指と中指でしっかり持って沐浴することが私の日課となりました。本当に1日中気が休まる暇がなく、夕方、妻の帰りてほっとしたことが、しみじみ思い出されます。

また、妻が日中職場でうとうとしないように夜も私が担当しました。初めの頃は、「早くねんねしてよ～」とあやしても、わが娘の目はパッチリ。焦れば焦るほどわんわん大声で泣かれる始末。「いい加減に泣きやんで寝ろよ！」と叫びたくなる気持ちをぐっとこらえ、必死にあやしました。そのうちに私自身が忍耐強くなり、「赤ちゃんは泣くのが仕事」と気持ちに余裕が出てくると、あやしてもすんなり泣き止み、ねんねするようになりました。「そうか～赤ちゃんはそばにいる

という安心感が欲しくて泣く時もあるのか」とふと気づきました。なにか勘どころを押さえた感じで、なぜ泣いているのかがある程度わかるようになり、育児が楽しくなってきました。

そして、育児を通して、泣くことでしか意思表示ができない赤ちゃんの心（泣く意味）にじっくり耳を傾けることをわが娘から学びました。まさにカウンセリングと同じで、相手の気持ちに寄り添うこと、決してスキルだけでなく態度の大切さを再認識しました。また、24時間エンドレスの子育てのしんどさも痛感し、育児も人生での立派な「キャリア」と感じました。

復職後は、自分の時間がやっと持てたという解放感を味わい、正直ほっとしました。しかし、妻の日中の心労を考え、なるだけ就業時間に効率よく仕事をこなし、さっさと我が家へ子育てに早く帰るようになりました。帰ってからは、あくせく仕事モードからゆっくり育児ペースに切り変えて、のんびりと娘と過ごしています。

子育てに少しでも興味があり、職場環境が整っているお父さん。長い職業人生、たとえ産後1週間でも職場から離れて、育児休業してみることをお勧めします。



執筆者の横顔：

- ①団体職員、②20～99人、③30代後半、
- ④平成16年2月～3月(2ヵ月間)

育休制度は、社会人として大きな能力を身につけるための静かな時空間を用意してくれた

## 育休で得た、5つの仕事能力

富田 晃彦さん



わたしたちは4年前、子を授かりました。3ヵ月だけですが、私が育休を取りました。子を持ったことで多くのことに気づき、学びました。ここではそのうち5つを記したいと思います。

まず、自分の想像力の限界を知り、謙虚になることができたことです。妻が妊娠してから、街中にお腹の大きな女性がたくさんいることに私は初めて気がつきました。とたんに、恐ろしくなりました。私はこれまで多くのことに気がつかず、たくさんの人に失礼なことをしていたかもしれない。私は自分に妙な自信がありました。仕事もうまくいっていました。しかし社会全体が自分の先生、という謙虚で前向きな態度を忘れていました。育休の時間は、それを思い出させてくれました。

次に、人生の先輩誰もを尊敬することができるようになったことです。子育てだけでなく、社会の中のいろいろな仕事、助け合いて、たくさんの人が働いていること、働いてこられたことを、心から尊敬できるようになりました。育休の時間は、そういう心を作り出してくれました。

3つめに、人の話をよく聞くことができるようになったことです。これは仕事で大いに役に立ちました。仕事でトラブルはつきものです。トラブルの相手は大変感情的になっている場合があります。しかしじっくり話を聞くと、問題の核心がよく見えてきました。じっくり話を聞くと、お互いの信頼も生まれました。この仕事能力は、育休中に鍛えたものでした。

そして、子をかわいらしく思うようになったことです。何だ、と思われるかもしれませんが。見た目が愛らしい、という単純なものではありません。言葉で表現するのは難しいですね。子育てを何ヵ月かこなしていくうちに、初めてかわいらしいという感情を持ちました。また、人の子もかわいらしく思うようになりました。変な表現ですが、私が指導する若手も、かわいらしく思うようになりました。子を授かる前は、子どもが嫌いということでは誰にも負けない自信があったくらいでした。育休の経験から、かわいらしく思うとい

う感情を、実感をともなって持つことができました。若手育成への新たな意欲につながりました。

最後に、制度整備で仕事をする方々への感謝の気持ちを持つことができるようになったことです。私たちは子を授かることを予想していませんでした。私も妻も仕事はどうなるのか、私は妻をどう支えたらいいのだろうか、何も用意していないのにどうすればいいのか。こんな私に貴重な時間を下さったのは、育休制度でした。育休制度を整えて下さったすべての方々に感謝したいと思います。

子育ては、私を成人させてくれた、と思っています。おっさんと呼ばれる年齢になってからですが、社会人として大きな能力を身につけることができました。育休制度は、そのための、ある意味静かな時空間を用意してくれました。そこで得た力を、仕事上の粘り、若手の育成への意欲、いろいろな人との信頼関係構築という形で社会に還元することが、私の次の仕事だと考えています。



執筆者の横顔：

- ①大学教員・准教授、②300～999人、
- ③30代後半、
- ④平成16年10月～12月（3か月間）



## 育児休業制度の概要（育児・介護休業法）

育児・介護休業法は、育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（平成3年法律第76号）の略称です。育児休業制度について、この法律で以下のとおり定めています。

労働者は、申し出ることにより、子が1歳に達するまでの間、育児休業をすることができます（一定の範囲の期間雇用者も対象となります）。

一定の場合、子が1歳6か月に達するまでの間、育児休業をすることができます。

参  
考

### <育児休業の対象となる労働者>

- 育児休業ができる労働者は、原則として1歳に満たない子を養育する男女労働者です。日々雇用される者は対象になりません。
- 育児休業の取得によって雇用の継続が見込まれる一定の範囲の期間雇用者は、育児休業がとれます。

### <育児休業の申出>

- 育児休業は、労働者の事業主に対する申出を要件としています。
- 1歳までの育児休業については、希望どおりの期間とるためには、申出に係る子の氏名、生年月日、労働者との続柄、休業開始予定日及び休業終了予定日を明らかにして、休業開始予定日の1か月前までに申し出ます。（1歳から1歳6か月までの育児休業については、休業開始予定日（1歳の誕生日）の2週間前までに申し出ます。）
- 申出の回数は、特別の事情がない限り、1人の子につき1回であり、申し出ることのできる休業は連続したひとかたまりの期間の休業です。

### <事業主の義務>

- 事業主は、要件を満たした労働者の育児休業の申出を拒むことはできません。
- ただし、労使協定を締結することにより、妻が専業主婦など、「配偶者が常態として育児休業に係る子を養育することができる」と認められる労働者に該当する場合は、事業主は労働者（夫）からの育児休業の申出を拒むことができ、拒まれた労働者は育児休業をすることができません。
- このような労使協定が締結されていても、男性労働者の場合、その妻が産後8週間までの期間であれば、「配偶者が常態として育児休業に係る子を養育することができる」と認められる労働者には該当せず、生まれた子についての育児休業を必ず取得することができます。

### <育児休業を1歳6か月まで取得できる場合>

- 以下のいずれかの事情がある場合には、子が1歳6か月に達するまで育児休業ができます。
  - (1) 保育所に入所を希望しているが、入所できない場合
  - (2) 子の養育を行っている配偶者であって、1歳以降子を養育する予定であったものが、死亡、負傷、疾病等の事情により子を養育することが困難になった場合
 育児休業中の労働者が継続して休業するほか、子が1歳まで育児休業をしていた配偶者に替わって子の1歳の誕生日から休業することもできます。

※法律で定められているのは、最低基準としての育児休業制度であり、企業によっては、これを上回る制度を導入している場合もあります。

※制度の詳細については、厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/>）をご覧くださいか、最寄りの都道府県労働局雇用均等室までお問い合わせ下さい。

# 育児休業に関する企業の取組例

特に断りのない限り、平成20年12月1日現在

## 株式会社サタケ

### 1 育児休業制度

子が満1歳に達するまでで、同一の子について2回まで取得可

※ 休業等による欠員には、①人員は補充せず残存人員でカバー、②他部署からの異動で補充、

③パート社員あるいは派遣社員で補充 一の優先順位で対応。

### 2 育児休業制度の利用状況

男性は、平成20年度までに2名が取得し、後述の「育児休職」については、平成18年度以降11名が取得した。

女性は、平成4年の制度導入以来、ほぼ毎年二桁の取得者がある。

### 3 その他の制度

このほか、配偶者の出産を機にした男性従業員の有給休暇の集中的取得（「育児休職」）を奨励（期間は5日～1か月）

### 4 社内環境整備

- ① 休業中の従業員に対して社内情報等の情報提供を行うとともに、育児休業者に対しては「育児休業者職場復帰プログラム」による職場復帰直後講習を実施
- ② 男性の育児休業取得を促進するためにアンケートを実施するとともに、啓発資料を作成し、社員に配布
- ③ 男性の育児休業者の体験を社内報に掲載するなど、男性の育児参加を奨励する社内体制の周知
- ④ 育児休職促進ポスターを自社で製作（これまで6枚）

株式会社サタケ 概要

事業内容 食品産業総合機械及び食品の製造・販売

所在地 広島県東広島市（本社）

従業員数 正規 901人（男性790人、女性111人）（平成20年3月1日現在）

有期雇用 98人（男性63人、女性35人）（同上）

## パナソニック株式会社

### 1 育児休業制度

子が小学校就学直後の4月末までの期間に、通算2年間取得可（2分割可）

### 2 育児休業制度の利用状況

平成19年度までに男性の取得実績があり（累計で約30名）、女性は出産者の9割以上が取得。

取得者のほぼ全員が復職。

### 3 その他の制度

- ①ファミリーサポート休暇制度（年間5日）  
配偶者の出産や家族の看護、子供の学校行事への参加に利用可（男性は年間約2500名が取得）
- ②ワーク&ライフサポート勤務  
子が小学校3年生の3月末まで選択できる短縮勤務制度  
短時間勤務、半日勤務、隔日勤務等のメニューがある。

### 4 社内環境整備

- ①HP・冊子による情報提供やHPに従業員が情報交換できるチャットコーナーを設置
- ②育児休業前後の上司との面談や、育児休業中、毎月1回上司とメール等で情報交換を行うことで復職を支援
- ③従業員から両立支援策の希望を聴取

パナソニック株式会社 概要

事業内容 電気製品の製造・販売

所在地 大阪府門真市（本社）

従業員数 約33万人（海外含む）





## 育児休業取得率（事業所規模別）

・育児休業取得率は女性 89.7%、男性 1.56%。

前回調査（平成 17 年度）に比べ女性で 17.4 ポイント、男性で約 3 倍と、男女とも大幅に上昇しているものの、男性の育児休業取得率は依然として低い。

### （1）女性

出産した女性に占める育児休業取得者（平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までの 1 年間に出産した女性のうち、平成 19 年 10 月 1 日までに育児休業を開始した者（育児休業の申出をしている者を含む。）の割合をみると、89.7%と前回（平成 17 年度 72.3%）より大幅に上昇した。

事業所規模別についてみると、規模が大きいほど育児休業取得率は高く（500 人以上規模で 94.0%（同 87.3%）、100～499 人規模で 93.3%（同 79.0%）、30～99 人規模で 87.6%（同 76.9%）、5～29 人規模で 65.3%（同 58.5%）であり、また、育児休業取得率は全ての規模で上昇した。

### （2）男性

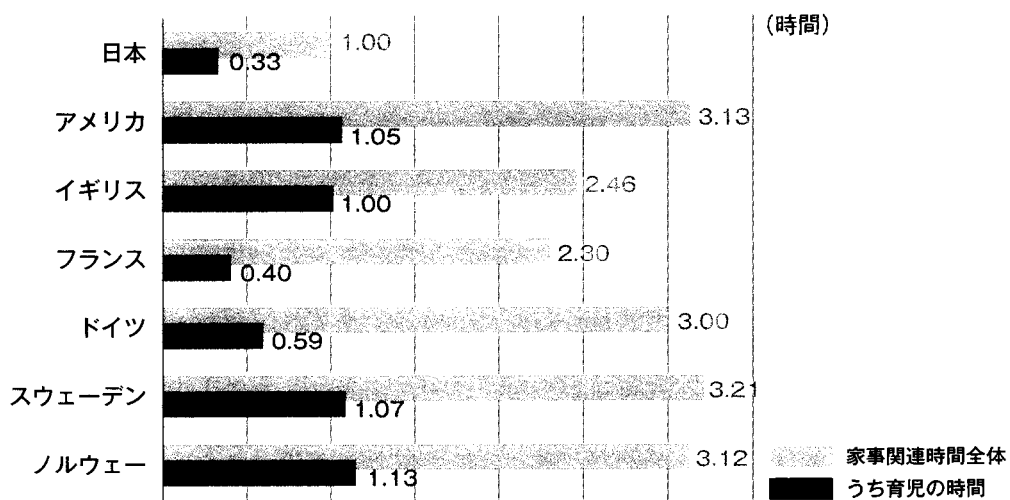
男性について、平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日までの 1 年間に配偶者が出産した者のうち、平成 19 年 10 月 1 日までに育児休業を開始した者（育児休業の申出をしている者を含む。）の割合をみると、1.56%と前回（平成 17 年度 0.50%）より 1.06%ポイント上昇した。

	女性	男性
平成 19 年度	89.7	1.56
500 人以上	94.0	0.66
100～499 人	93.3	0.57
30～99 人	87.6	2.43
5～29 人	65.3	8.85
平成 17 年度	72.3	0.50

出典）厚生労働省「平成 19 年度雇用均等基本調査」結果概要  
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/08/h0808-1.html>

## 6歳未満児を持つ男性の育児・家事関連時間（週全体）

・日本人男性の育児・家事関連時間は、欧米諸国と比較して極めて低い水準。



出典）出典：Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men"（2004）、  
 Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary"（2006）、  
 総務省「社会生活基本調査」（平成 18 年）

# 「パパの育児休業体験記」目次（本体掲載者一覧）

## 第1章 育休を後押しする周囲の理解と環境

- |   |  |
|---|--|
| 1-01 育児休業体験記<br>赤井 博信 さん                      | 1-10 妻と娘2人の4人世帯<br>匿名                      |
| 1-02 私の一年間の育児体験<br>岩川 幸二 さん                   | 1-11 私の育児休業<br>関根 剛彦 さん                    |
| 1-03 職場よりも親や親族の説得が大変<br>岩本 真吾 さん              | 1-12 育児休業を取得して初めて見た世界<br>田中 慎吾 さん          |
| 1-04 育児は「育自」<br>大岩 泰治 さん                      | 1-13 育児休業を経験して感じたこと<br>田中 知博 さん            |
| 1-05 0.5%<br>小梶 大輔 さん                         | 1-14 やっぱりハードルは高い？<br>～育休を体験して～<br>田中 雄造 さん |
| 1-06 パパ、頑張れ<br>小島 昌樹 さん                       | 1-15 入れそうにないなら、休んでみるか！<br>都築 真哉 さん         |
| 1-07 人生の貴重なひととき<br>小林 武 さん                    | 1-16 新米パパの手探り子育て<br>西迫 博 さん                |
| 1-08 育児休業制度等仕事と家庭が両立できる<br>環境に感謝！<br>鹿田 寛記 さん | 1-17 妻と子ども、そして自分のための育休<br>堀田 巖 さん          |
| 1-09 育児休業取得に伴う現状課題<br>匿名                      | 1-18 母乳さえ出れば・・・！<br>柳澤 靖明 さん               |

## 第2章 育休取得は工夫次第

- |                                     |                                   |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 2-01 私を変えた育児休業！ありがとう！！<br>大牟田 直人 さん | 2-05 自分にとって大切なこと<br>匿名            |
| 2-02 私の育児休業を振り返って<br>於久 英樹 さん       | 2-06 パパは<育児なし>じゃないよ<br>根本 徹 さん    |
| 2-03 仕事と育児はプラスとプラス<br>清水 恭一 さん      | 2-07 僕が育児休業を取った理由（わけ）<br>丸山 和也 さん |
| 2-04 育児休業が私に経験させてくれたこと<br>高谷 彰 さん   | 2-08 育児体験記<br>三石 真裕 さん            |



### 第3章 育児で深める絆

- 3-01 「格好良いパパ」になって  
荒井 清生 さん
- 3-02 家族  
岩間 昌生 さん
- 3-03 育児休業を取得して  
小田口 浩太郎 さん
- 3-04 子育ては大変  
匿名
- 3-05 家族は宝物  
川島 光博 さん
- 3-06 勇気を持って一歩を  
桐野 吉弘 さん
- 3-07 赤ちゃんとの初めての生活  
黒川 滋 さん
- 3-08 育休は「通過儀礼」！？  
佐藤 新太郎 さん

- 3-09 摩擦は仕方がない  
佐藤 崇 さん
- 3-10 家族のステキな未来のために  
～期間限定専業主夫のすすめ～  
竹村 直人 さん
- 3-11 育児休業は最大の愛情表現！  
水流園 光児 さん
- 3-12 お父さんもいっしょ  
匿名
- 3-13 絆（きずな）  
平林 陽 さん
- 3-14 育児休業を取得して感じたこと  
松場 実千雄 さん
- 3-15 睡魔と闘う育児休業  
匿名
- 3-16 夢の実現  
吉田 大樹 さん

参  
考

### 第4章 楽しむ子育て

- 4-01 売り言葉に買い言葉  
飯塚 宏志 さん
- 4-02 オンブマン  
石井 聡 さん
- 4-03 妻や息子、ママ友など沢山の人の支え  
られた育児休業  
石原 尚樹 さん
- 4-04 育児休業を取ってみたい  
大木 滋 さん
- 4-05 育児休業に感謝！  
大塚 亮平 さん
- 4-06 初めての遭遇  
岡本 暁 さん
- 4-07 新米おとうちゃんの育児奮闘記  
奥 博史 さん

- 4-08 男の育児休業の勧め  
岸本 大助 さん
- 4-09 ステキな育休ライフ  
北村 俊幸 さん
- 4-10 あたしのおとうさん！  
熊谷 和俊 さん
- 4-11 夫が父に変わるとき  
-2回目のプロポーズ-  
斎藤 仁丸 さん
- 4-12 短時間でも取得できる育児休業  
坂下 和広 さん
- 4-13 育休はメリット満載  
佐藤 英之 さん
- 4-14 理想と現実の間で  
鈴木 祐之 さん

- |   |   |
|---|---|
| 4-15 育児は助け合って<br>瀬戸 誠 さん                    | 4-21 育児休業を取得して思うこと<br>當麻 淳 さん                     |
| 4-16 育児休業取得しての家庭での取り組み<br>高野 正英 さん          | 4-22 育父休業<br>宮下 拓 さん                              |
| 4-17 ジョン・レノンを目指して<br>高野 通宏 さん               | 4-23 一生記憶に残る私の育児体験記<br>匿名                         |
| 4-18 宝物<br>竹内 康二 さん                         | 4-24 アナタの子供が、最近1番成長した！って<br>こと、言えますか？<br>三輪 吉広 さん |
| 4-19 私の育休体験記<br>匿名                          | 4-25 きっとどこかに<br>村田 和之 さん                          |
| 4-20 子どものいる生活と仕事<br>ー育児休業を経験してー<br>千田 博史 さん | 4-26 育休が教えてくれた父親という「仕事」<br>横川 純一 さん               |
|   | 4-27 男性だって育休くらいは<br>吉田 昌哉 さん                      |

## 第5章 育休取得の効果

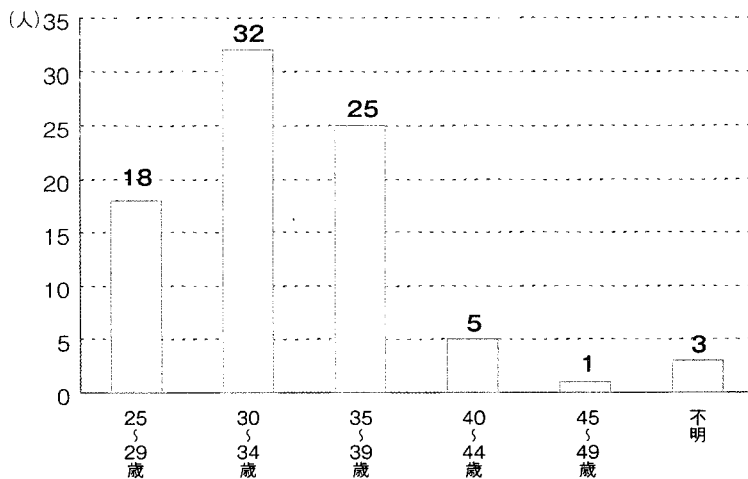
- |                                     |                                   |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 5-01 3度の育児休業を経験して<br>石塚 健一 さん       | 5-08 文部科学省で初めて育休を取得して<br>坪田 知広 さん |
| 5-02 自分の成長のために<br>岩上 誠 さん           | 5-09 育休で得た、5つの仕事能力<br>富田 晃彦 さん    |
| 5-03 育休パパの奮闘記<br>小澤 正明 さん           | 5-10 男性初 育児休業の取得<br>中沢 秀徳 さん      |
| 5-04 貴重な育児参加<br>匿名                  | 5-11 僕が育休で得たもの<br>堀川 佐渡 さん        |
| 5-05 育休はパパを「子育ての当事者」にする<br>阪本 真一 さん | 5-12 固定観念をぶち壊せ<br>松井 孝浩 さん        |
| 5-06 育児休業で得たこと<br>匿名                | 5-13 育児休業を取得して<br>箕浦 壮志 さん        |
| 5-07 育児なんかでなぜ休む？<br>高橋 勇樹 さん        | 5-14 尚子との育児休業体験記<br>山本 武 さん       |
|                                     | 5-15 育児休業の体験から<br>吉田 朗 さん         |



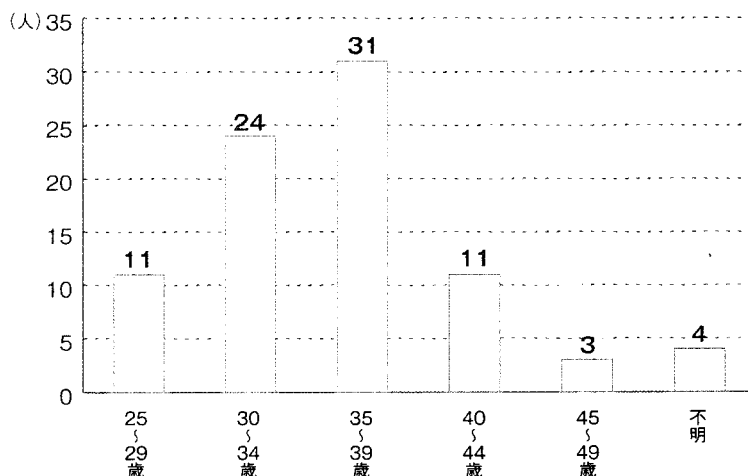
# 体験記執筆者の属性

参  
考

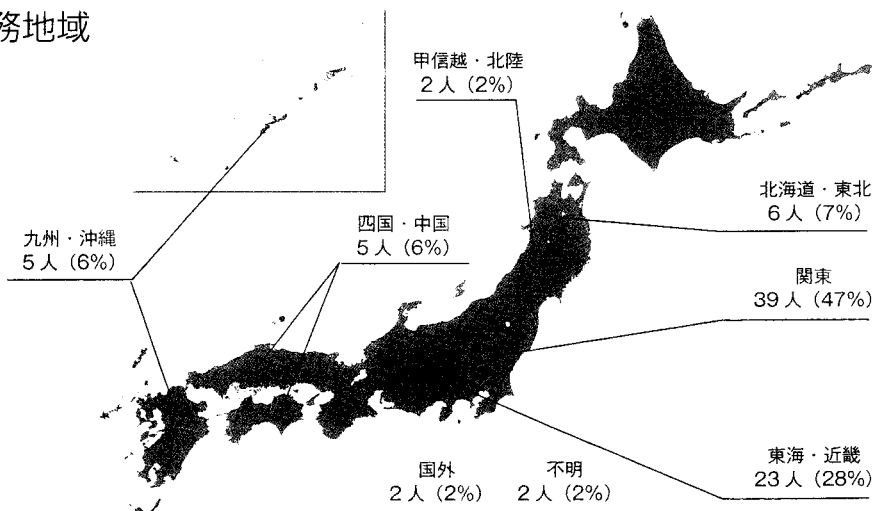
■ 初回育休開始時の年齢



■ 体験記応募時の年齢

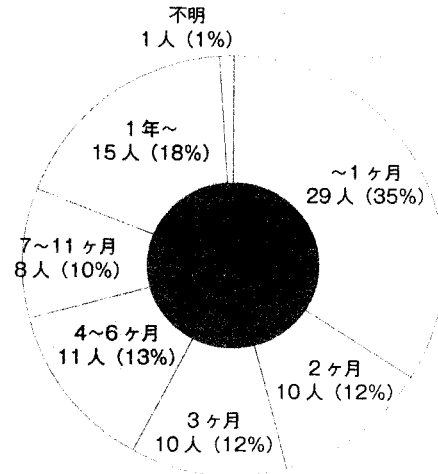


■ 体験記応募時の勤務地域  
又は居住地域

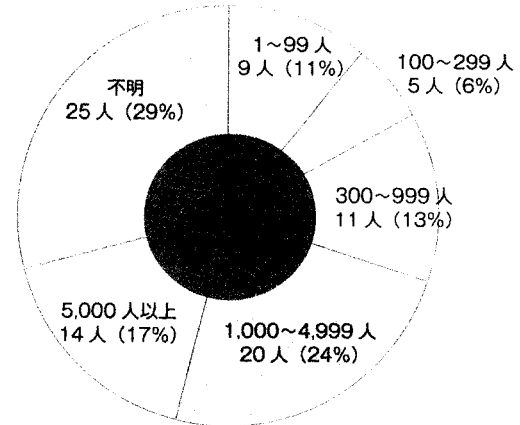




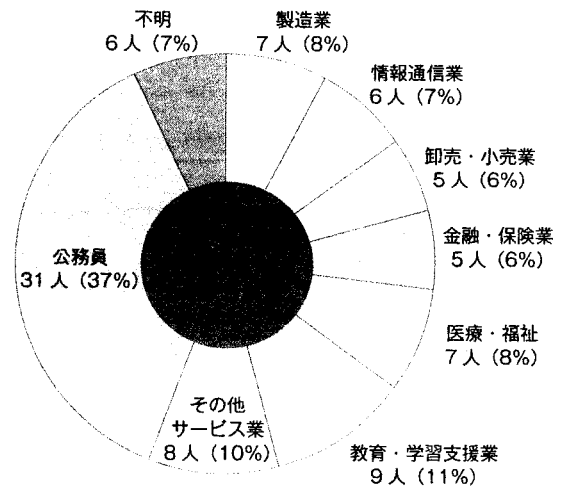
■ 育児休業の取得期間

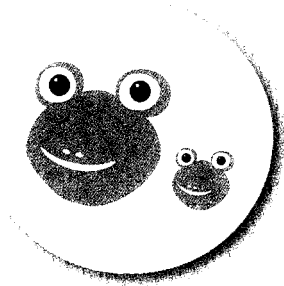


■ 勤務先の従業員規模



■ 業種





仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けて  
—「カエル！ジャパン」キャンペーン、展開中—



内閣府 仕事と生活の調和推進室

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1  
電話 03-3581-9268 ファックス 03-3581-0992